

おもしろ にいがた学

新潟方言・郷土史研究家 大田 朋子

プロフィール

新潟市出身（出生地は柏崎市）
東京で大学・研究室生活を経てUターン
雑誌記者、コピーライター、ライター、インタビュアーの仕事をするうちに、方言や習俗、歴史に魅せられ、研究、普及につとめる
心理学・新潟学等講師、経営学修士（MBA）
著書「独断大田流にいがた弁講座」（新潟日報事業社）
「おもしろえちご塾」（恒文社）等

「盛る よそう つぐ」

「ご飯を茶碗に盛る」この表現に違和感を覚える人もいらっしゃるかと思いますが、新潟県では、ご飯は「茶碗に盛る」が一般的なようです。

筆者は学生時代、「ご飯をよそう」と表現する東京人のことばに、ていねいでお上品だけでも何となくよそよそしさを感じたことがあります。また関西人の「ご飯をつぐ」の表現には、「液体じゃあるまいし・・・」とさらに違和感を覚えたものです。かたや、新潟人および東北人が当たり前のように口にしてきた「ご飯を盛る」という表現は、おそらく関東・関西勢からは違和感のあった表現かと思えます。

地域のことばには、そこに生活する人が、明らかにその土地ならではの「方言」「^{りげん}里言」と認識している語もありますが、生活に溶け込み日常で違和感なく使われていて、地域のことば「方言」とは気付かない語が多々あるものです。

さて、この「ご飯を盛る」も地域性のみられることばで、おもに信越以北、東北・北海道で使用されているようです。福島県の「飯盛山」（いいもりやま）の名称は、この山がちょうどご飯を盛った形に似ているから名付けられたといえますから、まさに「盛る」語がこの地域では一般的でした。万葉集にも「飯（いひ）を盛る」という表現がみられることから、古くから使われてきたことばといえましょう。

では、関東の一部・関西方面で使用される「ご飯をよそう」はどうか？耳をすまして聞いていると「ご飯をよそう」という人と、「よそおう」という人がいます。本来は「装う」（よそおう）と使われていたことばが短縮化して「よそう」になったといえますから、もともと身なりを整えるという意味と

同じで、「ご飯を整える」「器に綺麗に整えるようにして盛りつける」ということを表現したようです。

関西や九州の一部でみられる「ご飯をつぐ」は、盛る派には、どう考えてみてもご飯が液体状のおかゆのように思えてしまいますが、地元の人にとっては「ご飯はつぐ、味噌汁もつぐ、お酒もつぐ」が一般的なようで“所変われば言い回しも変わる”です。百歩譲っても（?）、いったん盛りつけたご飯にさらにまた盛り足す「山盛り感」が、「つぐ」感じにも思えてきます。

「山盛り」といえば、「てんこ盛り」という表現もありますが、この「てんこ盛り」も立派な方言です。関東と東北の一部、北陸と関西で使用されています。という、ほぼ日本列島で使用されていて、むしろ共通語にも認識されそうですが、新潟ではおもに「てっこ盛り」と表現します。「ほんとかね？」というあなた、新潟甚句の一節に「盆だてがんに、茄子の皮の雑炊だ、あまりてっこ盛りで、鼻のてっぺん焼いたとさ」という表現がありますので、新潟祭りの時期になったらご確認くださいませ。地域によっては「てっきょ盛り」という表現もあるようですが、「てんこ」も「てっこ」も「てっきょ」も、山頂や上空をさす「天骨」（てんこつ）が変化した語で、あまりの盛りで天まで届きそうな様子が伝わってきます。

「盛る」「よそう」「つぐ」に「てっこ」に「てっきょ」、日常の中の気付かない方言が、私たちの生活の中に溶け込んでいる一例です。

